

国立成育医療研究センター 救急診療部

- ① 救急科領域関連病院機能：日本救急科専門医指定施設・日本集中治療専門医研修施設
- ② 救急専門医プログラム連携病院：11 基幹施設と連携
 - 1. 日本大学 救急科専門研修プログラム
 - 2. 国立病院機構災害医療センター 救急科専門研修プログラム
 - 3. 国立国際医療研究センター病院 救急科専門医養成研修プログラム
 - 4. 日本医科大学救急医学教室 研修プログラム
 - 5. 川崎医科大学附属病院 救急科専門研修プログラム
 - 6. 岡山 救急科専門研修プログラム
 - 7. 東京ベイ 救急診療科研修プログラム
 - 8. 東京都済生会中央病院 救急科専門研修プログラム
 - 9. 聖マリアンナ医科大学総合 救急医研修プログラム
 - 10. 埼玉石心会病院 救急研修プログラム
 - 11. 埼玉病院 救急科専門医プログラム
- ③ 指導者：統括部長・診療部長（併任）1 名、医長 1 名、医員 7 名、専門修練医 5 名
うち、救急科専門医 7 名 小児科専門医 12 名 集中治療専門医 3 名
- ④ 2025 年 救急車搬送件数：3,471 件
- ⑤ 2025 年 救急外来受診者数：21,776 名
- ⑥ 2025 年 救急からの入院数：3,238 名(うち PICU 入院 390 名)
- ⑦ 研修部門：小児救急外来、PICU、麻酔科、放射線診断部、NICU、一般小児病棟
- ⑧ 診療・指導領域：
 - 小児救命救急手技・処置
 - 小児救急症候に対する診療
 - 小児外因救急に対する診療
 - 重症小児の施設間搬送（小児専門搬送チーム）

【成育医療研究センター救急診療部と研修内容】

救急外来は 1 次から 3 次救急医療を担い、walk-in、救急車を問わず患者を受け入れている。小児であれば内科系疾患、外因系疾患を問わず受け入れており、約 25%が外傷などが外因系疾患である。近隣施設や診療所との地域医療連携を行う一方で、院内の専門診療科とも連携して診療をおこなう。よって、感冒や軽症外傷・熱傷などから、重篤な基礎疾患がある症例、在宅診療症例の急変など幅広く診療を行う。また、近隣患者のみならず、都内全域および近県から重症患者の受け入れを行い、小児肝移植症例など特殊な治療に関しては日本全国から受け入れをしている。紹介は 4009 例であり、うち、転院搬送症例は 418 例で、最も重篤な状態で搬送のリスクも高いと判断された 55 例は当院の小児専門搬送チームにより搬送された。重篤な小児例の集約化が治療効果を上げることは明らかであり、国内最多入室数を誇る PICU への患者搬送を中心として、搬送チームは 24 時間起動可能で、

緊急要請に迅速に対応している。搬送手段は、救急車・ドクターカーのみならず、新幹線・ヘリコプター・旅客機など多彩な搬送方法かつ、長距離搬送の実績も豊富であり、重症小児の搬送医療研修が可能である。

研修プログラムとしては、2-3年の小児救急の研修において軽症・重症問わずに小児全般の救急診療ができるようになることを目的としたフェロープログラムを掲げている。小児救急診療を中心とし、集中治療・麻酔科・放射線科短期研修に加えて、フェローの背景により、必要に応じて新生児から思春期までの小児科診療を組み込んでいる。当施設では、小児救急診療では重篤症例が少ないことも踏まえて、on the job トレーニングの他にシミュレーション、各手技練習、症例検討を中心とした off the job トレーニングを週間予定として取り入れている。

希な疾患の診療に関しては症例報告、症例数の多さを利用した臨床研究などの実施により、本邦における小児救急医療について情報発信を行うことも研修内容に含めている。

【救急診療部 週間プログラム】

	月	火	水	木	金
7:30	シミュレーション		シミュレーション		シミュレーション
8:00	夜勤-日勤申し送り				
8:20	症例振返り	レクチャー/ 手技練習	スタッフ 講義	Journal club など	Clinical Q&A
9:00	放射線カンファレンス（放射線科医師による）				
9:20	診療				
17:00					
17:30					
	Sign-out (申し送り、症例振返り)				

＊夜勤、土日祝日の診療あり